公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信　2016年6月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆熊本県支部からの情報・・・・・・・・・・1
「探鳥会の工夫あれこれ！」
◆2016年バードウィーク「全国一斉探鳥会」報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
◆もしも、あなたの探鳥地で開発計画が持ち上がったら・・・・・・・・・・・・・・・・5
「開発計画が持ち上がったら」
◆ツバメの子育て観察会を実施しました・・6
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・11
（2016年4月分）
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・13
・2016年度「探鳥会リーダーズフォーラム」予告
・『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み
◆今月の購読者数・・・・・・・・・・・・15
◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・16
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・16

◆熊本県支部からの情報

「探鳥会の工夫あれこれ！」

初心者の中には、探鳥会に限らず、野鳥観察そのものをハードルの高いものと思っている方がいます。

そこで、そのハードルを取り払い、野鳥観察を楽しんでもらうために、私が探鳥会の中で実践していることをいくつかご紹介いたします。

■種名にこだわらない

探鳥会では鳥の種名を伝えて満足してしまうことがよくあります。しかし探鳥会において優先すべきは、鳥を実際に観察して、行動や特徴、違いを発見し楽しむことだと思います。

初心者の方は種名を知らない場合がほとんどですし、種名ありきで話をすると受け身になり、自分で観察すれば発見できることでも、説明を待つようになってしまいます。

さらに、種名を伝えたことで、図鑑を持っている方が図鑑を開き、目の前に実物がいるのに図鑑に没頭する場合があります。もったいないです。探鳥会終了後、初心者の方の頭に残っているものは、見た鳥の種名よりも特徴や行動です。難しいことは後回し。まずは頭に残りやすいことをたくさん体験してもらうことだと思います。

■見る時間と聞く時間を設ける

夏の森など葉が茂った場所では、じっくり鳥を観察できない場合が多々あります。しかし、鳥たちは囀り、活発に動いているので、周囲には音があふれています。見える時に観て、見えない時には聞く。そうすることで、見えなくても実はそこにいる鳥の存在と、その多さに気づくことができます。

具体的には私は探鳥会の中で「何種類いるか数えてみましょう」と提案します。みなさん初めは戸惑われます。「鳥の種類を知らないからちょっと…」という声が出ます。私は言います「違うと思ったものをそれぞれ別の種として数えれば大丈夫ですよ。」と。鳥のことを全く知らなくても、違いをもとに数えることはできるのです。あの鳥とこの鳥は大きさが違うから2種類。あれとこれは違う声だから2種類。といった具合です。

こうすると、鳥を初めて見る方でも、自ら発見した違いをもとに、ある程度の種数を言い当てることができます。「鳥って、知識がなくて

も楽しめるんだ！」と実感し、野鳥観察のハードルがぐっと低くなります。この体験は、参加者の方からも好評です。

■安易に回答しない

探鳥会では様々な質問が出ます。その対応についても心がけていることがあります。質問にもよりますが、私は安易に解答しないように心がけています。答えを知っていても、それが探鳥会の中で発見できるものであれば、その場で回答せずに一緒に探します。また、答えへの誘導は必要最低限にし、参加者自らの発見に委ねます。仮に、その過程で答えに向かう道のりから外れたとしても、できるだけ修正しません。答えに行き着くことではなく、自ら観察し発見を重ねることが重要だと思うからです。

こうして得た知識や経験は、人に教えてもらった答えよりも強く頭に残り、そのプロセスが、新たな疑問が生まれたときの答え探しにも応用できます。参加者に、発見する楽しさ、答え探しの楽しさを体験してもらって、鳥を観る・知るということを、何倍も楽しむことができるようになります。

ちなみに、質問の答えを見つけた後には、＋αの豆知識を話すこともあります。答え探しの過程で出てきた発見に関連した豆知識は、興味を次に拡げるきっかけとなるので重要です。

■鳥以外の生き物も観察する

子どもたちは、鳥が見えない時は当然ですが、見える時でも退屈しがちです。子どもたちの多くは、動くもの、間近で観察できるもの、手に取れるものに対してより興味を示します。目の前で動き、手を伸ばせば触れることができるもの。それは鳥ではなく、トカゲやカエル、虫であって、探鳥会の中でも出会えるものたちです。これらを上手に活用すれば、子どもたちの関心を一旦これらの生き物に向けてから再度鳥に向かわせ、さらに鳥からこれらの生き物に戻すなど、探鳥会にメリハリが増します。これは、鳥に飽きてきた会員にも有効です。トカゲやカエルや虫や植物は、鳥の食べ物です。食物網を意識して生き物も観察すると、そのつながりに気づけたり、食べるための部位である嘴や爪などにも目が向いたりと、観察の幅が大きく広がります。

■探鳥地の資料を配布する

私が参加者の反応でずっと気になっていたのは、「何を探しているの？」「どこを見ているの？」という声でした。

そうした質問に対して、仮に口頭で、その時探している鳥の種名を伝えても、種名だけでは何の話かわからないし、細かく説明すれば逆に頭がこんがらがってしまいます。何を探しているのか、どこを見ているのかわからない方は、担当者が鳥を探す間、何もできずただ待つしかないのです。

この時間を、自ら探す時間に変えたい、そして仮に見えなくても、その場にいた鳥の姿を後から絵で確認し、次の楽しみにしてほしいというのが、探鳥会で配布する資料を作成したきっけでした。

作成したのは、その探鳥地で観察できる鳥のイラストを描いてA4サイズに配置したものです。鳥のイラストは親しみやすい絵にしつつも特徴をわかりやすくし、雌雄や成幼で姿が異なる場合は適宜描きました。そして背景には、その探鳥地に合わせて描いた環境の絵を置き、それらが対応するようにしました。

これで、図鑑を持っていない初心者の方も、視界のどこを見ればどのような鳥がいるのか自分である程度つかむことができ、鳥の姿もイメージできます。参加者全員が鳥を探せる状況が生まれやすくなり、より多くの参加者に鳥を観察してもらい、一人当たりの観察時間を長くすることもできます。この資料には、余白にメモをされる方もおり、鳥合わせの後、オリジナルの図鑑のようになっていることもありました。これを持っていれば、一人で探鳥地を歩く時にも役立ちます。

もう１つ別の資料もあります。それは、その場所で見られる鳥のうち、似た鳥の識別ポイントを簡潔にまとめたものです。例えば、江津湖で見られるカモ類識別のための資料がそれです。A4 両面構成で、表に識別のポイント、裏にはカモ類を楽しむ知識集を載せました。識別ポイントには、カモ類のオスの顔のイラストをまとめました(メスは省いています)。カモ類のオスは、顔の模様で簡単に見分けられますよね。

この資料は、「図鑑を見ても、鳥のどこを見て種類を決めていいのかわからない」との意見がきっかけで作りました。図鑑を持っていても、各鳥のいろいろな部位に目が移ってしまい、識別のポイントをとらえられない方もいたのです。識別ポイントを絞った資料が必要だと気づかされました。

ただしこれらの資料は、鳥を楽しむ方法がわかる一方、自ら発見する機会を奪うことが懸念されます。好評ではありますが、その兼ね合いが現在の課題です。

以上が、今回抜粋した探鳥会の工夫あれこれ

です。参考になりましたでしょうか。今後も、参加して下さった方、特に初心者の方には鳥を観て、その面白さに触れてもらい、できれば興味を持ってもらって、その興味関心を長く続けてもらいたいですね。

（熊本県支部／岡本浩太朗）

▲探鳥会で配布している資料

◆2016 年バードウィーク「全国一斉探鳥会」報告

５月のバードウィークの探鳥会の参加者状況はいかがだったでしょうか。今年は 40 支部が 62 ヶ所で開催し、探鳥会保険の申請から集計したところ、参加者は計 1,667 名でした。（6 月 15 日現在）

今回普及室では、バードウォッチング用小冊子にお申込みいただいた非会員の方 31,000 名に対して、パンフレット「探鳥会のご案内」の郵送やメール送信等により、バードウィーク探鳥会の広報をおこないました。

探鳥会終了後に８支部からご協力いただき、当日の参加者名簿をいただき、広報の成果を調べました。その結果、会員外の参加のうち、平均して３割程が「探鳥会のご案内」や財団からのメールを見て参加されていることが分かりました。（表１）

「探鳥会のご案内」やメールは、財団が発行している小冊子に申し込んでくださった方にお送りしています。みなさんの地域で小冊子の申込者を増やすことが、会員でない方の集客につながります。

財団では、小冊子に申し込むための「小冊子プレゼント葉書」を作成しておりますので、支部の活動エリア内で葉書を設置できるお店や施設、イベントがございましたら、引き続きお知らせいただけますと幸いです。

「小冊子プレゼント葉書」についてのお問い合わせは普及教育グループまでどうぞ。
（TEL 03-5436-2622
E-mail nature@wbsj.org）

（普及室／堀本理華）

▲小冊子「おさんぽ鳥図鑑」プレゼント葉書

表１　財団の広報による参加者（参加者名簿を返送していただいた８支部）

支部	日程	開催場所	会員外の参加者数（人）	財団の広報を受け取っている人数（人）	割合（割）
栃木	5/14	鬼怒川緑地運動公園	27	5	2
埼玉	5/15	芝川・見沼田んぼ	38	9	2
長野支部	5/15	戸隠森林植物園	16	3	2
愛知県支部	5/15	名城公園	12	7	6
〃	5/15	岩屋堂	15	9	6
〃	5/15	大池公園	5	0	0
滋賀	5/15	下物	6	6	10
大阪支部	5/15	淀川	6	0	0
〃	5/15	初谷川	20	9	5
〃	5/8	真田山-大阪城公園	41	8	2
広島県支部	5/15	宮島	8	4	5
〃	5/14	作木	21	4	2
鹿児島	5/15	県民の森	11	4	4

◆もしも、あなたの探鳥地で開発計画が持ち上がったら

第２回「開発計画が持ち上がったら」

前号に続き、探鳥地を守るために普段からできることというテーマで、財団の自然保護室長の葉山に寄稿してもらいました。先月は、具体的な計画が持ち上がる前にどんな備えができるのか、という内容でしたが、今月はいざ開発計画が持ち上がったら何をすればよいのかについて述べてもらいます。

■計画段階での参画

行政のホームページ等で審議会や検討会が開催されることがわかったら、とにかく出来る限り傍聴して詳細を知ることが重要です。そしてその情報に基づいて必要な場合は担当部局と意見交換を行うなどの行動を取ることができます。「行政は一度決めた計画はなかなか変えない。」とよく言われますが、逆に計画が固まる前の段階での交渉は大変有効です。

審議会などを傍聴しても、行政の流暢な説明で計画の影響がよくわからない場合があります。例えば、「洪水を防ぐためには、河川整備計画で〇〇橋下流での最大流量がこのくらい必要」といったような説明があった場合です。その時には、それを流すためには、どんな工事を行うのか。どのくらいの拡幅や河床の掘削が必要なのかを確認することも大切です。こうした具体的なやり取りを行政と行うことによって、行政側も事態がこじれるのを嫌がって、事前に意見照会などが行われる場合もあります。意見募集などがあった場合には、ぜひ支部としての意見を出しておきましょう。

■まずは計画をよく知ろう

開発計画が既に具体的な事業となっている場合、対応のための情報を収集することが重要です。その場合、直接、役所などの計画主体に説明を求めるべきです。

具体的には事業の所管部署で、以下のような情報を確認するとよいでしょう。

- その事業の目的
- 計画の全体像
- 具体的にどんな工事が行われるのか？
- 環境への影響評価はどうされているのか？
- スケジュールはどうなっていて、現在はどの段階なのか？

また、自然環境保全に関わる部所に対しては、事業の所管部署とどのような協議が行われているのかを確認することも大切です。

開発計画の全容が見えてきたら、その開発によってどんな影響がでるのか。その規模はどのくらいなのかを予測して、あらためて現地を見ながら検討をしましょう。また、民間事業の場合は、許認可関係の法令違反がないか確認し、問題点を整理しましょう。

以上の情報を元に、支部としてどう取り組むかをよく検討することが必要です。財団事務局に相談する必要がある場合にはご連絡ください。（自然保護室 TEL03-5436-2633）

（自然保護室／葉山政治）

◆ツバメの子育て観察会を実施しました

財団普及室と東京都稲城市共催で、ツバメの子育て観察会を行いました。(5/14)

稲城市は、平成 27 年３月に「生物多様性いなぎ戦略」を策定した人口 9 万人の都市です。稲城市は、自治体として生物多様性を進めていくために、シンボルとなる生き物を模索しているところでした。一方で普及室では次年度以降、ねぐら入りだけでなくツバメの生活史をテーマにした観察プログラムの展開を検討しており、そのための施行の場として稲城市と共催で観察会を実施しました。この日の参加者は市内在住の親子を中心に 15 名。プログラムの大きな流れは以下の通りです。

【日　時】　2016 年５月 14 日（土）　13:30-16:00
【参加者】　15 名
【ねらい】　ツバメの子育ての現状を知って、ツバメを見守ろうという気持ちを育む
【配付物】　子育て見守りハンドブック、子育て状況調査のチラシ、ねぐらマップ、おさんぽ鳥図鑑プレゼント葉書
【担　当】　荒哲平（自然保護室)、堀本理華（普及室）
【内　容】

13:30～13:40	＜あいさつ＞	スタッフ紹介、流れの説明
13:40～14:00	＜ツバメの話＞	ツバメの形態、子育て、鳴き声の紹介
14:00～15:00	＜ツバメ観察＞	抱卵中の巣を遠巻きにして観察。声、巣材、行動
15:00～16:00	＜まとめ＞	「ツバメが減っている！」ツバメの子育て調査の結果
		「ツバメを守る取り組み」
		「巣を見守っているお店にメッセージを書こう！」

以上

（１）ツバメの話

冒頭はツバメの特徴や生活について、クイズとお話で子どもたちの注意を引き付けながら楽しくツバメの暮らしを確認しました。

ここで特に気を付けた点は、観察会の冒頭であることを考え、理屈っぽい話は避けて、ツバメの形態を確認したり、鳴き声タッチペンで声を繰り返し再生し、覚えてもらうことによって、野外に出たときに自分でツバメを発見できるようにという点に気を配りました。(詳しい内容は、PDF 版のスライドをご覧ください。)

（２）野外観察

つづいて、実際のツバメを観察するために、会場から徒歩 5 分のところにある京王「稲城」駅に向かいました。ツバメの巣は駅周辺に集中して営巣していましたが、この日は２か所のツバメの巣を観察しました。

一か所目は、駅前のビルの駐車場の入り口です。車の出入り、通行人の邪魔にならないように細心の注意を払いながら巣を遠巻きにして観察しました。

下から見上げているだけではわかりませんでしたが、巣の下には卵の殻が落ちていたので、すでにひなが生まれているのでしょう。ひっきりなしに親鳥が出入りし、餌を運び込んでいました。

つづいて２か所目は、駅の改札の正面にあるカフェです。ここは出入り口の天井近くにある監視カメラの上に巣を作っていました。よく見ると、巣の真下にはふんを掃除しやすいようにと段ボールが敷かれており、店員さんたちが巣を見守ってくださっている様子が見て取れます。

▲駐車場の出入り口で観察

▲カフェの出入り口で観察

（３）まとめ

一通りツバメの子育てを観察した後は、また環境学習センターに戻り、ツバメの置かれている厳しい現状についてお話ししました。（詳しい内容は、PDF 版のスライドをご覧ください。）

日本人の心情の中に深く根付いているツバメ。このツバメの飛ぶ風景をいつまでも残していけるようにしたいですね。

最後は、巣を落とさず見守ってくださっていることに感謝しつつ、本日快く観察を許可してくださったカフェの店員さんに御礼の色紙を作成して手渡しました。

▲参加者からの寄せ書き

（４）ツバメの子育て観察会を実施してみて

先日、財団がツバメの子育て状況について、独自の調査結果を発表しましたが、それによると都市のツバメは農村に比べて巣を落とされる確率が７倍にもなります。そんな中で、こうして巣を落とさずに優しく見守ってくださっているお店の方々も少なからずいます。都市のツバメはこうした方々によって守られているんだなということを実感することができました。

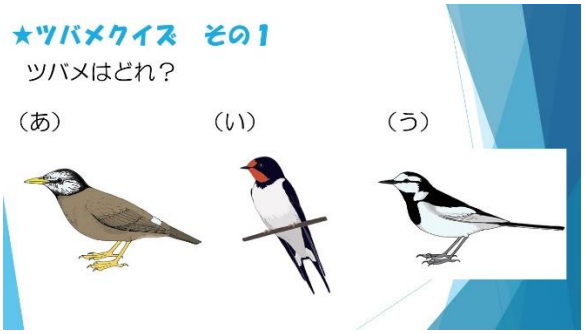
その他、普段の探鳥会と違っていたことは、ツバメの観察会は人の生活圏内であるため、ひっきりなしに人が通り、中にはツバメを観察している我々に声をかけてくださる方がいたことです。お話を聞くと、普段から野鳥のことが気になって探鳥会に参加したいと思っているがなかなか機会がないとのこと。人の多い場所で鳥を見ることによって一般の方々との接点が生まれるという思わぬ副産物がありました。

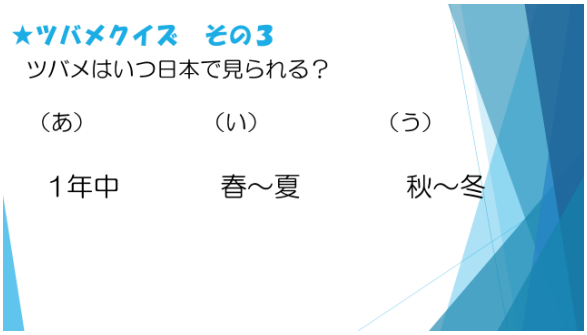
一方で、いつもにもまして通行人の邪魔にならないよう配慮する必要があり、参加者のサイズを 15 名と小さくしたこと、常に通行人の動きに注意し声掛けをするスタッフを付けたことなども配慮しました。さらに、事前にビルの持ち主やお店のオーナーにご挨拶に伺い、観察させていただくための交渉を行っていたことも付記しておきます。

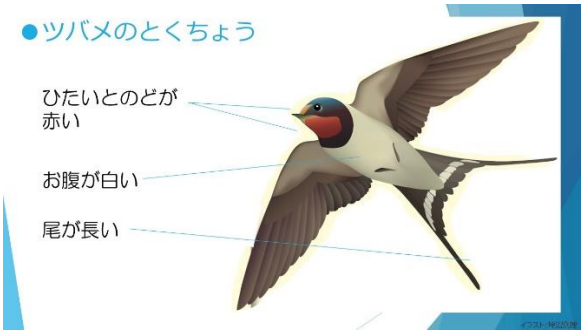
各支部におかれましても、すでにツバメの子育て観察会を実施しているという事例があれば財団普及室まで情報をお寄せいただければと思います。また、今後に向けて同テーマでの観察会に関心を持っている支部がありましたらお声がけください。

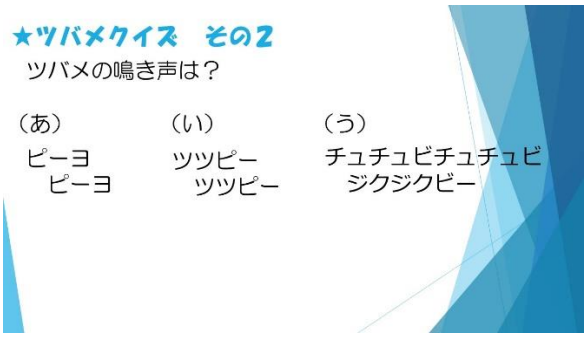
（普及室／箱田敦只）

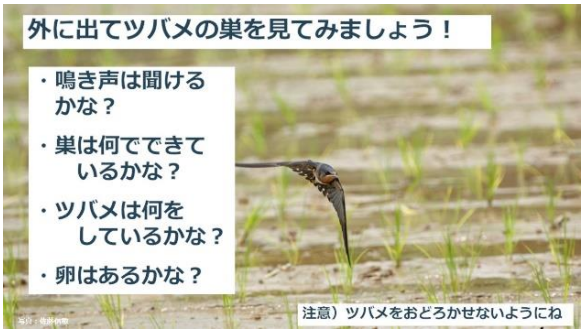
＜「ツバメの話」で使用したスライド＞（ご希望の方にはデータをお送りします）
PDF 版のみ表示



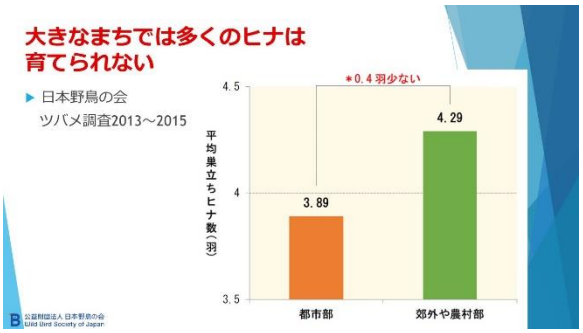


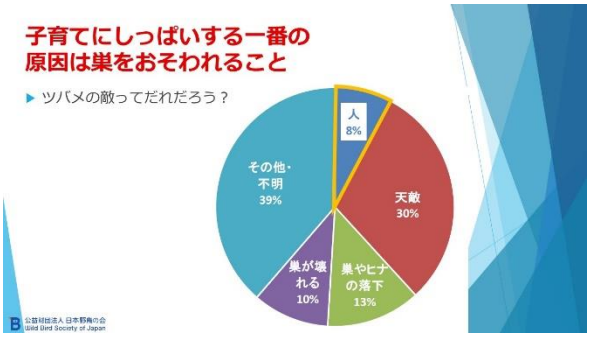


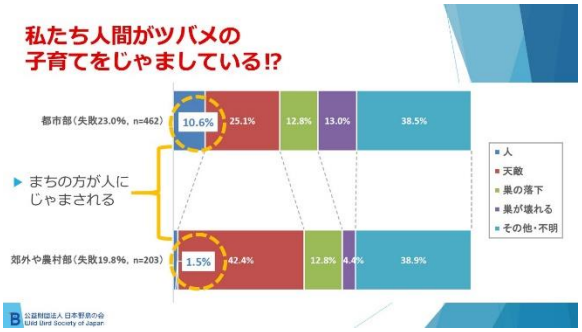


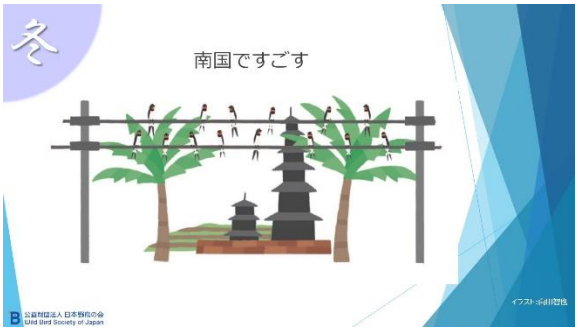


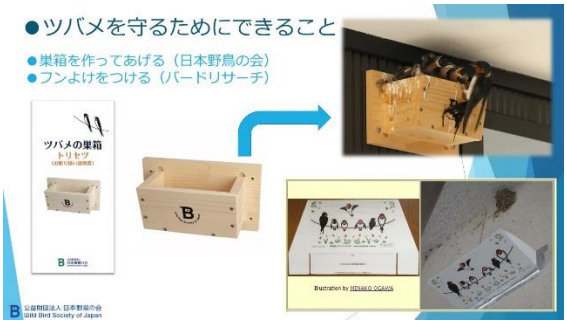
＜「まとめ」で使用したスライド＞（ご希望の方にはデータをお送りします）
PDF 版のみ表示

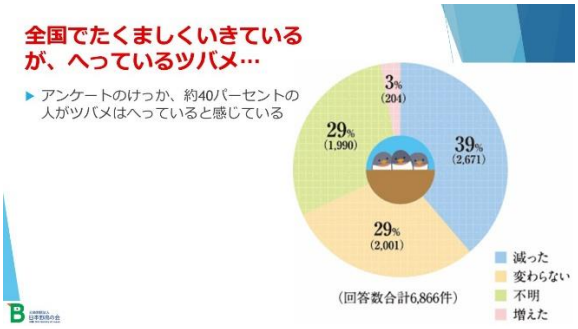












●全国ツバメの子育て状況調査（2013～）

- インターネットを使用
- 巣を登録，情報共有
- 3年間でのべ2,500人が全国796市区町村を調査

参加者に小冊子を頒布

●スワローボックスの販売（2015～）

- ツバメに巣作りしてほしくない場所（ドアの上など）から巣を移動させる
- 各地から成功例が寄せられる

簡単な組み立て式

●ツバメのねぐら入り観察会（2014～）

ツバメのねぐら＝「ツバメが集まって夜ねむる場所」

巣立ったツバメ
子育てを終えた親ツバメ

↓夜は河原に集まる

ヨシ原にねぐらをつくる
（大きいものは3万～5万羽）

- ツバメのねぐらマップを作成
- 全国の観察会の広報

●日本野鳥の会から参加者の皆様へプレゼント！

●あなたもツバメ子育ておうえんだん
子育てみまもりハンドブック

- もっとツバメについて知りたい！
- 巣ができたけど、フンはどうすればいいの？
- ヒナが巣から落ちた。どうしよう！
- 大変！　巣がくずれそうだ
- カラスから卵やヒナを守る工夫は？

など

◆探鳥会保険集計結果（2016 年４月分）

４月は６３支部からご報告をいただき、計 248 回の探鳥会が開催され、のべ 6,276 人が参加されました。

表２．４月の探鳥会保険集計結果（2016 年５月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
小清水	−	−	−	−	−
オホーツク支部	2	48	9	2	59
根室支部	−	−	−	−	−
釧路支部	−	−	−	−	−
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	1	10	5	2	17
滝川支部	1	10	0	1	11
道北支部	1	1	7	1	9
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	2	56	24	6	86
小樽支部	−	−	−	−	−
苫小牧支部	−	−	−	−	−
室蘭支部	1	18	7	3	28
函館支部	0	0	0	0	0
道南桧山	3	22	14	8	44
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	2	27	4	2	33
秋田県支部	4	44	8	4	56
山形県支部	4	38	8	6	52
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	1	25	8	5	38
北上支部	0	0	0	0	0
宮城県支部	3	40	23	7	70
ふくしま	2	52	1	3	56
郡山支部	0	0	0	0	0
二本松	−	−	−	−	−
白河支部	1	1	0	3	4
会津支部	−	−	−	−	−
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	1	24	1	1	26
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	9	98	56	12	166
栃木	−	−	−	−	−
群馬	2	19	2	4	25
吾妻	2	64	0	4	68
埼玉	8	186	80	55	321
千葉県	10	136	25	43	204
東京	15	511	15	74	600
奥多摩支部	9	135	29	29	193
神奈川支部	13	200	53	40	293
新潟県	−	−	−	−	−
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	3	55	19	3	77
石川	2	57	11	6	74
福井県	1	16	0	2	18
長野支部	5	100	25	10	135
軽井沢支部	1	7	4	1	12
諏訪支部	2	14	19	3	36
木曽支部	−	−	−	−	−
伊那谷支部	−	−	−	−	−
甲府支部	1	31	3	2	36
富士山麓支部	−	−	−	−	−
東富士	−	−	−	−	−
沼津支部	1	13	3	2	18
南富士支部	2	52	9	3	64
南伊豆	0	0	0	0	0
静岡支部	3	34	4	6	44
遠江	3	69	12	10	91
愛知県支部	15	160	140	39	339
岐阜	−	−	−	−	−
三重	4	49	14	8	71
奈良支部	3	103	11	6	120
和歌山県支部	−	−	−	−	−
滋賀	5	31	18	10	59
京都支部	7	120	33	15	168
大阪支部	21	451	110	83	644
ひょうご	7	140	92	14	246
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	2	11	3	2	16
島根県支部	3	14	6	3	23
岡山県支部	5	110	56	16	182
広島県支部	3	40	41	12	93
山口県支部	5	35	6	5	46
香川県支部	4	101	27	4	132
徳島県支部	5	62	13	5	80
高知支部	2	17	23	2	42
愛媛	6	58	37	9	104
北九州	3	33	5	3	41
福岡支部	7	129	52	16	197
筑豊支部	3	20	4	3	27
筑後支部	7	313	8	14	335
佐賀県支部	2	30	12	3	45
長崎県支部	−	−	−	−	−
熊本県支部	2	31	27	5	63
大分県支部	1	19	6	1	26
宮崎県支部	2	21	3	2	26
鹿児島	3	54	22	11	87
やんばる支部	−	−	−	−	−
石垣島支部	−	−	−	−	−
西表支部	−	−	−	−	−
全国	248	4,365	1,257	654	6,276

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■2016 年度「探鳥会リーダーズフォーラム」予告■

今年度も以下の通り探鳥会リーダーズフォーラムを計画しております。今年度は、西日本、東日本で 1 回ずつ開催の予定です。次号で告知を開始する予定ですのでもうしばらくお待ちください。

＜名　称＞　探鳥会リーダーズフォーラム in 西日本
＜日　時＞　2016 年 10 月 29 日（土）13 時～30 日（日）12 時
＜会　場＞　六甲山 YMCA（兵庫県神戸市）（http://www.osakaymca.jp/rokko/）
　　ゲスト　上田恵介氏（公益財団法人　日本野鳥の会　副会長）
＜主　催＞　（公財）日本野鳥の会　普及室
＜定　員＞　50 名
＜参加費＞　1 万円程度を予定

＜名　称＞　探鳥会リーダーズフォーラム in 東日本
＜日　時＞　2017 年 1 月 28 日（土）13 時～29（日）12 時
＜会　場＞　八王子セミナーハウス（東京都八王子市）（https://iush.jp/）
＜主　催＞　（公財）日本野鳥の会　普及室
＜定　員＞　50 名
＜参加費＞　1 万円程度を予定

■『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み■

◇ツメナガキセキレイ？

前回、新版のお詫びと訂正について書かせていただきましたので、過去のことではありますが、『新・水辺の鳥』改訂版の訂正についても、お詫びとともに報告させていただきます。

2012 年に発行された日本鳥類目録改訂第 7 版に準拠すべく、『新・山野の鳥』『新・水辺の鳥』では 2013 年に改訂版を発行しました。翌年には早くも 2 刷発行となったのですが、会員からご指摘をいただき、、『新・水辺の鳥』改訂版でツメナガセキレイの間違いが発覚しました。図版の横に記された種名がツメナガキセキレイになっていたのです。ただちに正誤表を挟み込むことにして、2015 年、3 刷の段階で修正できましたが、1 刷を購入された方、2 刷の正誤表を挟み込む前に購入された方には、誠に申し訳ありませんでした。

かつて、先輩にどんな図鑑を見ておくべきか？を尋ね、「常に最新のもの」と言われた時はよく意味がわからないでいたのですが、今は増刷のたびに、どこを、どこまで直すべきか？を悩みながらも判断を下さなくてはならない立場になってしまいました。それでも、有難いことに、当会発行の図鑑類は売れ続けているので増刷が出せます。生物学者で図鑑に関わる知人は何人もいますが、増刷が出せることを羨ましがられます。あまり売れない図鑑も数あるようで、正誤表も作れない、直したくても直せないという事態はよくあるのだそうです。

◇ヤマドリ雌は 55 センチ？

『新・山野の鳥』改訂版では、4 刷でヒメアマツバメの翼開長を 28cm から 32cm にしたこと（2015 年 6 月号）や、ヒヨドリ幼鳥の図版を谷口高司さんに描きなおしてもらったことはすでに紹介しました(2015 年 7 月号)。ヒヨドリについては幼鳥が巣立つ頃ですから、下尾筒の羽毛が成鳥のようには見えない点を是非、確認してみて下さい。

『新・山野の鳥』改訂版はお陰様で、現在 5 刷発行の準備に入っています。さて、どこを、どこまで直すべきか？ですが、『フィールドガイド日本の野鳥』の新版では先のヒメアマツバメのように、より適正と思われる数値を検討してきたので、『新・山野の鳥』でもその数値で揃えたほうがよいという観点から見直してみたら、ヤマドリ雌の全長が 55cm のままでした。

前回お詫びさせていただいたように誠に申

し訳ない見落としもあったわけですが、これまで紹介してきた以外にも、『フィールドガイド日本の野鳥』は多くの方々にチェックしていただいてきました。ヤマドリ雌については、松田道生さんから「ほとんどの図鑑が全長を 55 ㎝にしているが、もう少し小さいように思われる」というご意見をいただき、新版では、HBW（Handbook of the Birds of the World）などが採用している 51～54cm という数値を参考にしたので、『新・山野の鳥』改訂版でもそれに合わせたいと考えています。

『新・山野の鳥』が売れ続けているので、それに対応させた『CD 声でわかる山野の鳥』も版を重ねており、現在 14 刷（2014 年 6 月発行までで 13 刷となる）の準備中です。例えば、CD の冊子（P17）でメボソムシクイの飛来時期が「5 月下旬から」と記されていますが、「5 月中旬頃から」としたほうがよいと考えているところです。目録 6 版まではメボソムシクイの亜種に分類されていたものが、目録 7 版で別種のオオムシクイとされたことに鑑みて、『フィールドガイド日本の野鳥』の新版（P344）では、メボソムシクイを 5 月中旬頃から、オオムシクイは 5 月下旬頃からと記したためです（早いものではメボソムシクイで 4 月下旬、オオムシクイでは 5 月中旬の飛来もあるので悩ましいところですが、図鑑の記載では、一般的と思われる時期を選択しています）。

◇ヤブヨシキリはどこで？

4 月発行の秋田県支部報に、秋田県下での標識調査でヤブヨシキリが記録されたことが紹介されていました。目録 7 版で新たに掲載されたヤブヨシキリは、新版では P333 で図版、P342 で解説文を記して、さらにその類似種の中で、セスジコヨシキリ、スゲヨシキリ（＊）にも触れています。

ヤブヨシキリの繁殖地はバイカル湖から西、越冬地はインドなどですから、今後も記録されるだろうか？という観点から、類似種の解説文中に含める程度でもよいのではないか？という意見もありました。しかし、目録 7 版によるとセスジコヨシキリは 2002 年の与那国島での記録しかないのに対して、ヤブヨシキリは北海道、舳倉島、久米島と距離的に離れた場所でも記録されていました。今後も国内で記録される可能性が高いと考え、図版付きで掲載することにしたのですが、それでよかったと思えます。

＊スゲヨシキリは目録 7 版では検討中にもありませんが、2013 年に日本鳥学会誌（Vol.62、No.2）で観察記録が掲載されたので、扱うことにしました。

（普及室／安西英明）

▲新版で谷口高司さんに追加していただいた図版から、今回は本文にあるヤブヨシキリです。新版では増補部分のイナダヨシキリの横に図版を掲載しましたが、それに対応した解説文を入れるスペースがなく、解説文は別ページとなっています。
ただし、図版で比較できてこそフィールドガイドなので、図版は解説ページの横にも掲載しました。

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信６月号の電子メール版の購読者数は、先月から１名増えて 829 名です。支部ごとの購読者数は以下の通りです。

表３．探鳥会スタッフ通信６月号電子メール版の購読者数（2016 年６月 14 日現在）

支部	購読者数		支部	購読者数
小清水	1		福井県	10
オホーツク支部	6		長野支部	2
根室支部	0		軽井沢支部	2
釧路支部	2		諏訪支部	5
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	70		木曽支部	1
旭川支部	4		伊那谷支部	1
滝川支部	1		甲府支部	3
道北支部	1		富士山麓支部	0
江別支部	0		東富士	0
札幌支部	4		沼津支部	3
小樽支部	3		南富士支部	2
苫小牧支部	2		南伊豆	2
室蘭支部	5		静岡支部	3
函館支部	0		遠江	12
道南桧山	2		愛知県支部	33
青森県支部	1		岐阜	5
弘前支部	4		三重	19
秋田県支部	3		奈良支部	3
山形県支部	5		和歌山県支部	5
宮古支部	1		滋賀	19
もりおか	3		京都支部	31
北上支部	2		大阪支部	26
宮城県支部	39		ひょうご	15
ふくしま	3		NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	11
郡山支部	1		島根県支部	2
二本松	1		岡山県支部	23
白河支部	2		広島県支部	8
会津支部	2		山口県支部	4
奥会津連合	0		香川県支部	6
いわき支部	1		徳島県支部	6
福島県相双支部	0		高知支部	1
南相馬	0		愛媛	14
茨城県	21		北九州	12
栃木	45		福岡支部	11
群馬	25		筑豊支部	19
吾妻	1		筑後支部	6
埼玉	37		佐賀県支部	5
千葉県	18		長崎県支部	1
東京	55		熊本県支部	14
奥多摩支部	47		大分県支部	3
神奈川支部	20		宮崎県支部	3
新潟県	1		鹿児島	3
佐渡支部	1		やんばる支部	0
富山	3		石垣島支部	1
石川	29		西表支部	2
			合計	829

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の購読について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも購読できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

久しぶりに探鳥会スタッフ通信の編集を担当しました。2013 年 4 月の初回発行時は「果たして記事が集まるだろうか？」という不安がありました。おかげさまで 3 年が経過し、記事の内容も寄稿してくださる方も広がってきています。この通信は、探鳥会リーダーのみなさんの情報共有ツールです。みなさんの声をお寄せください。みんなで探鳥会活動をより良いものにしていきましょう。

（普及室／箱田敦只）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信 第 39 号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2016 年 6 月 17 日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org